



『覚・求・徹』

～校長室だよ～

令和6年9月2日(月)

第7号

葛城市立白鳳中学校

校長 中川 順一

～チャンスはあたりまえの中にある～
「チャンスを掴め!!」

チャンスを掴め

チャンスを生かせ

「チャンスを生かせ!!」



大変暑い37日間の夏休みが終わり、いよいよ2学期がスタートしました。夏休み中は各部活動でコンクールや県大会、近畿大会への出場等めざましい活躍がありました。文化祭の準備頑張っている生徒、乳幼児とのふれあい交流会に参加した生徒、御所市水平社博物館の現地学習会に参加した2年生など普段できない体験を多くのおみなさんができたのではないのでしょうか。

先日、開会式を迎えたパリオリンピックでは、多くのアスリートの一生懸命な姿に心動かされました。勝敗に関わらず一生懸命にスポーツに向き合っている人の姿は美しいと思います。今大会初の種目のブレイキン、セヌ川での開会式、今までなかったものや初めてのものはやはりドキドキしますね。マスコットの「フリーズ」も見ることができました。(パラリンピックでは「フリーズ」が競技用のブレードの義足をつけています)

さて、1学期の終業式で「マインドセット」のお話をしました。「硬直マインドセット」の人は、オリンピックで言うメダルや結果だけで全てを判断してしまう人、「しなやかマインドセット」の人は、結果と合わせて、そこまでの努力の過程、経験自体を大切にできる人です。そんな人こそうまくいかない時にも頑張れる、苦境に追い込まれても失敗を恐れずに試練に立ち向かい乗り越えることができます。みなさん、「しなやかマインドセット」で2学期の勉強や行事を頑張りましょう!

2学期始業式にみなさんに伝えた言葉は、1学期終業式の「チャンスを掴め」から「チャンスを生かせ」です。この夏休みでなにか今まで知らなかった事やできなかった事を経験しましたか。勉強、部活動、音楽、ダンス、釣りなど何でも良いのです。もしまだ掴めていないと思っている人がいたら中谷彰宏さんが「チャンスは『あたりまえ』の中にある」という本の中で「チャンスは特別な人にだけ訪れるものではありません。チャンスを掴むにはもの凄いことをする必要はありません。あたりまえのことを全力でできる人がチャンスを掴むのです。」と書いています。この夏休みの一生懸命頑張れた事の中にチャンスがあったかもしれません。もう一度振り返ってみましょう!そして、そのチャンスを生かしていく努力をしていきましょう!昨年、紹介した「Play Learning」(学ぶことを楽しみましょう)をこの2学期も継続し、まだまだ転がっているあたりまえの中にあるチャンスを掴み、生かしましょう。【2学期始業式より】

Play Learning

スタンフォード大学で大学生のグループに出された課題の大学生の実践例を紹介しましょう。

課題「今、手元に5ドルあります。2時間でできるだけ増やすように言われたらみなさんはどうしますか?」

中学生のみなさん「ギャンブルで増やす」「募金を募る」・・・終業式のあとすぐにアイデアを伝えてくれたみなさん、ありがとう!

大学生グループ「ラスベガスに行く」「宝くじを買う」他

最も増やしたグループは600ドルにしたそうです。人気のレストランの予約席の列並びをし、長時間待ちたくない人に売ります。最高20ドルで売れたそうです。



お金に着目すると問題を狭く捉えてしまう。問題をもっと大きな観点で捉え直すことにしたのです。身近にあるものに着目したのです。これが正しいという正解はありません。考えること自体に楽しみ、おもしろみがあるのです。自分と周りの人との違いに気づくのです。そこに自身の学びが生まれます。ティナ・シーリグ著「20歳のときに知っておきたかったことスタンフォード大学集中講義」参照

2024.8.18「読売新聞」より抜粋です。
みなさんはパリオリンピックのどんなところに
心動かされましたか。ご一読ください。

白鳳中学校

学びのチャレンジ継続中！



磐城児童館でのふれあい交流 ↑
たくさん生徒が参加しました



↑8/21(水)2年生現地学習会が
水平社博物館で開催されました



↑女子バスケット部、今年も
ちゃんこ鍋コンテストにチャレンジ！



←8/29(木)
平和学習講演会
日本ウクライナ文化交流
協会会長の小野元裕さん
に講演いただきました

五輪「敗者の弁」胸熱く



パリ五輪が11日、幕を閉じました。

私は選手や恩師に取材を重ね、7月中旬から

パリに入って熱戦の様子を社会面で伝えてきました。

日本は45個のメダルを獲得しましたが、私が担当した
陸上や競泳など23競技では6個にとどまり、メダルに届
かなかった多くの選手の「敗者の弁」を聞くことになりま
した。当日の紙面で十分に紹介しきれなかった、選手の思
いが詰まった言葉を届けます。〈中略〉

ただただ悔しい結果となったのが、女子板飛び込みの三
上紗也可選手(23)です。小学4年からメダルを追いか
けてきました。準決勝敗退した東京以降、国際大会で上位
に入るなど力をつけました。しかし、パリでは予選敗退。
「2回目もこうなってしまうんだな。(五輪は)もう恐怖
でしかない」と涙を流しました。

時に残酷な結果になることもある。そう痛感した瞬間で
した。三上選手は1週間後、インスタグラムで「自分を信
じて進んでいきます」と、再起への決意を記していました。

12年ロンドン大会以来、12年ぶりに出場した陸上男
子やり投げのディーン元気選手(32)も印象的でした。
ロンドンで10位になって以降、度重なるけがに苦しんで
きました。

予選で今季自己最高の82メートル48を記録しました
が、決勝進出はならず。「12年ぶりという思いがふと来
て、勝手に涙が出てきた。唯一無二の舞台ですね」と話し
ました。ロンドンの記録を41センチ上回ったことは、「自
分を褒めたい」と素直に喜びました。〈中略〉

紙面では、メダルを獲得した選手を取り上げることが多
いですが、私はメダルが全てではないと感じました。競技
人生を懸けて戦った選手の姿は美しく、胸が熱くなりました。

【担当】高木文一

保護者の皆さまへ

いよいよ夏休みも終わり、2学期がスタートいたしました。まだまだ暑さが残る中ではありますが、生徒たちの元気な声に学校も夏休みの校舎の静けさから活気を取り戻しています。夏休み明け、生徒のさまざまな変化を注視しながら、保護者の皆さまともさらに連携を取りながら2学期の学びを進めてまいりたいと考えております。

今年は葛城市制20周年ということもあり、さまざまなイベントに中学生が参加いたします。ぜひ、保護者の皆さまにも中学生の頑張る姿を多く見ていただければと思います。